

絶対にがん

を治す。強い

意志に付いた

ニックスネーム

が「癌克人」。

あふくまお

その主—郡山市の松井清さんが闘病記をホームページで公開している▼松井さんが前立腺がんの宣告を受けたのは平成十年、五十七歳の時だった。骨やリンパ節への転移もあり、「末期で余命は半年」。

落ち込んだのは一瞬で、すぐに気持ち切り直した。道んだ道は「自然食を中心にした法。自然食をめぐって自らの免疫力を高め、がん細胞の増殖を抑える体づくりを始めた。▼野菜も共に食べた。無農薬の野菜、自然栽培のみそやしょうゆ、雑穀をまぜた玄米ご飯…。投薬で出た痛みにはピワの葉やコンニャクの温湿布を施し、しい力、薬膳らしい力が実感できました」とあり、同じ方法が誰にでも当てはまるわけではない。ただ、強い信念を持つことと周囲の協力が必要なこと。松井さんは言う。自分の経験を生かして、もう一度、がんを治す方法を今